出動！　国際緊急援助隊

どんな仕事があるの？

みなさんは、JICAが地震や津波などの災害にあった世界の人たちを助けるために、国際緊急援助隊（JDR）を送っていることを知っていますか？　四回シリーズで仕事の内容をくわしく紹介します。

8月、9月のテーマ
出動！国際緊急援助隊

1時間目	どんな仕事があるの？
2時間目	準備完了、さあ出発！
3時間目	隊員の持ち物見せて！
4時間目	スマトラ沖大地震・インド洋津波

世界の国で助け合い

地震や水害が多い日本は、災害に対する経験があります。その経験を災害にあって困っている世界の人たちのために役立てています。

日本で大きな災害があったときは、世界の国々から、お見舞いや救援物資が届けられました。このように世界の国々は助け合っているのです。

どんな人が派遣されるの？

被災地に派遣される国際緊急援助隊には、主に次の四つのチームがあります。

救助チーム

地震でこわれた建物などに閉じこめられた人たちを助けます。警察、消防、海上保安庁の救助を専門にする人たちが送られます（写真１）。

医療チーム

地震や洪水でけがした人や病気になった人を治療し、病気が広がるのを防ぎます。医師、看護師、技師らがボランティアとして登録。災害が起こったときに派遣されます（写真２）。

専門家チーム

火山噴火や地震でこわれやすい建物の調査など、専門的な仕事を担当。地震、建築、病気の専門家にお願いし、被災地に派遣します（写真３）。

自衛隊部隊

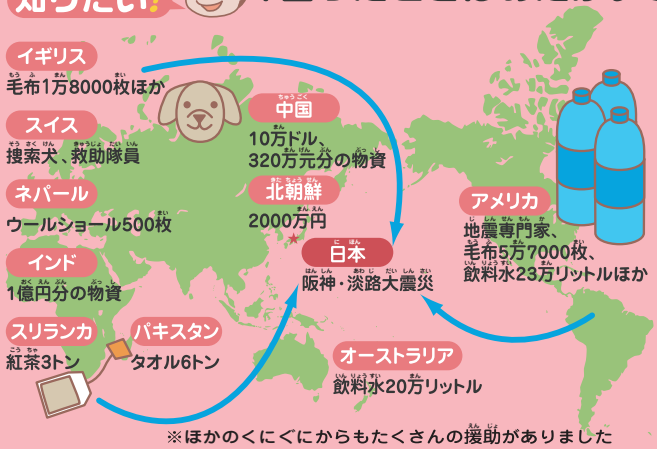
災害による被害が特別に大きいときは、自衛隊が送られることもあります。

被災地への援助ほかにもいろいろ

国際緊急援助隊は被災地に人を送っているほか、テント、毛布などの物を送る仕事もしています。そのほか日本は、災害にあった国にお金を送ったり、学校や病院を建て直す協力もしています。

写真１地震でたおれた建物で救助（1999年台湾地震）、写真２けが人を手当て（2004年スマトラ沖大地震、インドネシアで）、写真３被災地を調べる専門家（2003年アルジェリア地震）

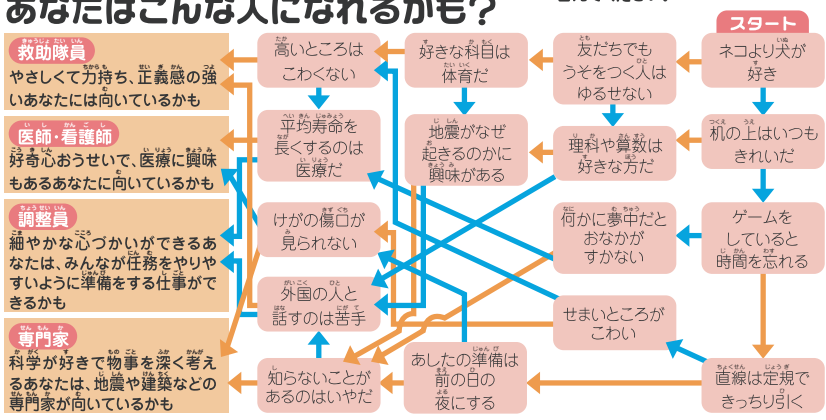
もっと知りたい！「困ったときはおたがいさま」



六千人を超える命が失われた一九九五年の阪神・淡路大震災。このとき、海外から多くの支援の手がさしのべられたのを知っていますか＝左の地図参照。裕福でない国も、心からのお見舞いを送ってくれました。日本が国際緊急援助を行うのも、「困ったときはおたがいさま」という精神にもとづいています。

やってみよう　あなたはこんな人になれるかも？

●「はい」（→）か「いいえ」（→）で答えてください。



2007年９月６日掲載の記事です

出動！　国際緊急援助隊

準備完了、さあ出発！

大きな災害があったとき、国際緊急援助隊は、少しでも早く被災地にかけつける必要があります。隊員はどのように集められて、どんな活動をするのでしょうか。みなさんも国際緊急援助隊のメンバーになったつもりで、いっしょに考えましょう。

8月、9月のテーマ
出動！　国際緊急援助隊

1時間目	どんな仕事があるの？
2時間目	準備完了、さあ出発！
3時間目	隊員の持ち物見せて！
4時間目	スマトラ沖大地震・インド洋津波

A国で地震が発生しました。緊急援助隊の出発から帰国まで、Q１～５の質問に答えながら、考えてみましょう。

１日目：被災地に到着。A国の政府にたのまれて、道路にまで患者があふれている病院の前で活動することになりました。小学校や公民館で活動することもあります。

考えてみよう

きみも緊急援助隊！

写真はインドネシア・ジャワ島中部地震の被災地で

写真は二〇〇六年、インドネシア・ジャワ島中部地震の被災地で

A国で地震発生！

帰国 ・・・ 13日目 ・・・ 8日目 ・・・ 6日目 ・・・ 2日目 ・・・ 1日目

Q1 上の□に当てはまる数字を入れましょう。

Q2 いよいよ診療開始です。包帯を巻いた患者さんを診察すると、傷口がうんでいました。なぜだと思いますか？

Q3 被災地はまだ混乱していて、援助活動に大いそがし。ところが、緊急援助隊の代表は毎日国連のテントに行って、各国の救援隊の代表と会議をしなくてはいけません。なぜ？

写真は二〇〇五年パキスタン地震の被災地で

Q4 けが人は少なくなってきましたが、かぜや下痢の患者さんが多く来るようになりました。なぜだと思いますか？

Q5 明日、日本に帰ることになりました。テントや注射器などは現地の病院にあげましたが、あまった薬はわたしませんでした。なぜ？

考えてみようの答え　Q1 10　Q2 地震が発生した日に治療してもらったものの、その後、治療を受けることができなかったために傷口がうんでしまったのです　Q3 たくさんの国から数多くの団体が来て活動しています。効率的に支援するために、みんなで話し合うことが必要です　Q4 家がこわれ外でくらしている人や、きれいな水を飲めない人々が、地震からしばらくたったこの時期に体の調子がおかしくなり始めます　Q5 テントや注射器などは使い方が分かりますが、日本の薬の使い方の説明は日本語で書かれているため、まちがった使われ方をすると大変なことになるから

帰国：医療チームは、A国に診察した人数やこれから必要になる医療の支援などについてアドバイスした報告書を提出して、日本に帰ります。引き続き支援が必要なときは、第二陣が派遣されます。

もっと知りたい！

国際緊急援助のルールは？

海外で災害が起きたら、相手の国に確認せずにすぐにかけつける--。これはよいことでしょうか？

一九八八年に、旧ソ連のアルメニアで二万人以上が亡くなる大地震が起きたとき、各国の支援チームがアルメニアに確認せずにかけつけました。

その結果、災害で混乱したアルメニア政府がさらに混乱してしまい、被災者への支援がおくれてしまいました。また、どこかの国の救助チームが捜索した場所を、ほかの国がまた探すなどのむだも出てしまいました。

「救うべき命が救えなかった」という反省から、今は世界の国々がきちんと連絡を取り合い、協力するようになりました。国際緊急援助隊も、被災した国からの「助けてほしい」というお願いを受けてから派遣されているのです。

出動！　国際緊急援助隊

隊員の持ち物見せて！

被災地にかけつける国際緊急援助隊は、どんなものを持っていくのでしょう。今回は、隊員の持ち物を見てみましょう。

8月、9月のテーマ
出動！ 国際緊急援助隊

1時間目	どんな仕事があるの？
2時間目	準備完了、さあ出発！
3時間目	隊員の持ち物見せて！
4時間目	スマトラ沖大地震・インド洋津波

命を救う大切な道具

緊急援助隊は、チームによって持っていくものがちがいます。救助チームはたおれた建物などに閉じこめられた人を、探して助け出すための道具をたくさん持っていきます。例えば、ファイバースコープという小型カメラ。せまいところにさしこんで中のようすを写すことができます。また、コンクリートをこわす機械やスコップなども必要です。テントや食料、水などと合わせると、五〜七トンの荷物になります。

荷物の山を前に活動の準備を始める隊員たち＝写真はどちらも二〇〇六年のインドネシア・ジャワ島中部地震の被災地で

いちばん大きな荷物は？

医療チームの荷物は、薬、医療器具、レントゲンなどのほか、診療用テントや食料、水などを合わせ、二トンほどになります。ホテルがこわれてしまっている場合に備えて、生活用のテントや機材も持っていく場合は、四トン以上になることもあります。

専門家チームが持っていくものは、仕事によってさまざまです。地震や火山の専門家チームの場合は地震計などを持っていきます。

緊急援助隊がこれまでに持っていった中でもっとも大きい荷物の一つは、ヘリコプター。森林火災の消火や、海で遭難した人を探すためなどに使いました。

食料だって忘れずに

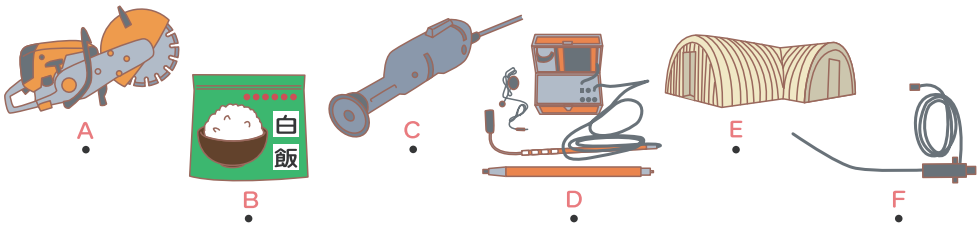
現地ですばやく活動し、また現地の人々に迷惑をかけないために、緊急援助隊は最低三日分の非常食を持っていきます。お湯や水をくわえるだけですぐに食べられるアルファ米や缶詰、固形みそ汁などです。

食べ物にはかならず火を通します

被災地でも食料が手に入るようになったら、現地の食べ物もとります。ただし、おなかをこわさないように、かならず火を通したものを食べるようにしています。また、水はミネラルウオーターを飲みます。おなかをこわしてしまっては、何のために活動しにいったのか分からなくなるからです。

結んでみよう

下のＡ〜Ｆのイラストは、どれも緊急援助隊の道具です。どんな名前でどのような使い方をするのかア〜カから選び、線で結びましょう。



A　B　C　D　E　F

ア　イ　ウ　エ　オ　カ

ギプスカッター　骨折した人にまかれたギプスを切る機械。国際緊急援助隊には最近導入されました

ファイバースコープ　小型カメラがついた捜索機材。自由自在に曲がるので、せまいところにも入ります

エンジンカッター　コンクリートの壁や鉄のドアを切る機械。救助チームが使います

アルファ米　緊急援助隊の非常食。家庭でも非常袋に入れておくと便利

ボーカメ　先端にカメラがついた捜索機材。相手の声が聞け、自分の声も伝えられます

十字テント　空気でふくらむテント。診療室や災害対策本部用として使います

結んでみようの答え
A―ウ
B―エ
C―ア
D―オ
E―カ
F―イ

出動！　国際緊急援助隊

スマトラ沖大地震・インド洋津波

2004年、インドネシアのスマトラ沖で大きな地震があったのを覚えていますか？沿岸の国々に津波がおしよせ、多くの命が失われました。このときも、国際緊急援助隊は被災地に向けて出動しました。

8月、9月のテーマ
出動！国際緊急援助隊

1時間目	どんな仕事があるの？
2時間目	準備完了、さあ出発！
3時間目	隊員の持ち物見せて！
4時間目	スマトラ沖大地震・インド洋津波

地震発生そのとき日本では

二〇〇四年十二月二十六日午前、インドネシアのスマトラ沖で、マグニチュード（M）９というとても大きな地震が起き、地震による大津波が発生しました。

東京にある国際緊急援助隊事務局ではただちに現地の事務所やインターネットなどから被害の情報を集めました。最終的に二十二万人を超える死者・行方不明者が出た大災害です。地震直後のこの時点でも相当な被害が予想されました。その日の夕方には、まずスリランカへ医療チームが派遣されることが決まりました。

各国から続々と支援要請

その後、被害を受けた各国から支援の要請が日本政府に届きました。インドネシア、モルディブ、タイにも医療チーム、救助チームの隊員が向かいました。さらに家族や家を失った人々に心のケアをする専門家チーム、医療活動を行う自衛隊部隊も派遣。計約千九百人の日本人が現地で活動しました。

約百四十人の医療チーム

医療チームは四か国で約百四十人の医師や看護師が、地震や津波でけがをした人や、その後のテント生活で体調が悪くなった人たちを診察。四つの国で診療した患者は、約六千七百人にのぼりました。

調べてみよう
上の地図の①～⑥の国のうち、国際緊急援助隊が活動したスリランカ、タイ、インドネシア、モルディブはどこか調べてみましょう。

もっと知りたい！

世界中で困っている人を助けたい

国際緊急援助隊の医療チームには、ボランティア登録をしているお医者さん、看護師さん、医療関係者が七百人以上います。福岡県のお医者さん、冨岡譲治さんも、ボランティア登録をしている一人。海外で災害が起きると、被災者のもとにかけつけます。これまでに、国際緊急援助隊のメンバーとしてマレーシアやエルサルバドル、アルジェリア、インドネシアで活動しました。

冨岡先生は小学生だった一九六八年、九州南部をおそったえびの地震で被災。このときの経験がきっかけで、海外の被災者に手をさしのべたいと思ったそうです。「世界中どこでも、どんな状況でも、困った人を助けたい。いつもそう思っています」と冨岡先生は話しています。